

2024年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年8月14日

上場会社名 GFA株式会社 上場取引所 東
 コード番号 8783 URL http://www.gfa.co.jp
 代表者(役職名) 代表取締役 (氏名) 片田 朋希
 問合せ先責任者(役職名) 執行役員 管理本部長(氏名) 津田 由行 (TEL) 03-6432-9140
 四半期報告書提出予定日 2023年8月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第1四半期の連結業績(2023年4月1日~2023年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第1四半期	969	103.4	△669	—	△747	—	△756	—
2023年3月期第1四半期	476	50.5	△114	—	△121	—	△117	—

(注) 包括利益 2024年3月期第1四半期 △755百万円(—%) 2023年3月期第1四半期 △115百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2024年3月期第1四半期	円 銭 △14.43	円 銭 —
2023年3月期第1四半期	円 銭 △4.39	円 銭 —

潜在株式調整後1株あたり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株あたり四半期純損失であるため、記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
2024年3月期第1四半期	百万円 5,306	百万円 567	% 9.3
2023年3月期	5,683	1,313	21.8

(参考) 自己資本 2024年3月期第1四半期 494百万円 2023年3月期 1,240百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2023年3月期	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 0.00
2024年3月期	—	—	—	—	—
2024年3月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日~2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,199	120.9	△260	—	△321	—	△394	—	△7.41

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

新株予約権の行使による発行済株式数の増加に伴い、1株当たり当期純利益を修正しております。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 1社(社名) クレーンゲームジャパン株式会社、除外 1社(社名)

当第1四半期連結会計期間において、クレーンゲームジャパン株式会社の株式を取得し、同社を連結の範囲に含めております。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
② 期末自己株式数
③ 期中平均株式数(四半期累計)

2024年3月期1Q	52,692,700株	2023年3月期	52,668,800株
2024年3月期1Q	300,449株	2023年3月期	300,449株
2024年3月期1Q	52,380,432株	2023年3月期1Q	26,648,721株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8
(収益認識関係)	9
(重要な後発事象)	10
3. その他	11
継続企業の前提に関する重要事象等	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間（2023年4月1日～2023年6月30日）における我が国経済の業況判断につきましては、日銀短観（2023年7月3日発表）によりますと、企業の景況感を示す業況判断指数（DI）が大企業製造業はプラス5で前回より4ポイント上がりました。2021年9月以来7四半期ぶりに改善し、価格転嫁の進展や原材料コスト高の一面を受け、幅広い業種で景況観が上向きました。

大企業非製造業はプラス23で前回より3ポイント上がりました。感染症の影響緩和が寄与し、対面型サービスの幅広い業種で改善の動きが続き、特に「宿泊・飲食サービス」の改善が大きく、2019年6月以来の高水準であります。

国内不動産業界につきましては、三鬼商事株式会社によりますと、2023年6月時点の都心5区（千代田区・中央・港・新宿・渋谷）のオフィス平均空室率は6.48%となり、2023年3月より0.07ポイント上がりました。6月はオフィスの拡張移転などがあった一方、統合による解約などの動きが見られたことや、大規模ビルが竣工した影響で地区全体の空室面積が増加したため同空室率がわずかに上昇しました。

このような環境のもと、当社グループは、収益獲得のさらなる強化に努めてまいりました。

この結果、当連結会計年度の業績は、売上高969,812千円（前年同期比103.4%増）となり、経常損失747,049千円（前年同期は121,742千円の経常損失）、親会社株主に帰属する当期純損失756,054千円（前年同期は117,060千円の親会社株主に帰属する当期純損失）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

①金融サービス事業

金融サービス事業につきましては、主としてファイナンシャル・アドバイザー事業、投融資事業及び不動産投資事業の営業活動を行ってまいりました。ファイナンシャル・アドバイザー事業につきましては、取引先の資金調達支援や財務戦略の助言などに努めました。投融資事業につきましては、様々な事業者の事業資金需要に応える事業融資を実行しました。不動産投資事業につきましては、太陽光発電施設の運用による売電収入を得るとともに、不動産の売却活動を実施しました。

しかしながら、経営投融資事業においては美容脱毛サロン事業の収益は増加しているものの、事業の収益構造の性質上、店舗スタッフ人員確保に伴う費用、賃料等の店舗運営費及び運転資金の負担が現状は先行しております。

この結果、売上高は132,506千円（前年同四半期比14.6%の増）、セグメント損失は556,076千円（前年同四半期は91,921千円のセグメント損失）となりました。

②サイバーセキュリティ事業

サイバーセキュリティ事業につきましては、第1四半期に大型案件の受注が大きく寄与しております。また、新たにWebサイト改ざん瞬間検知・瞬間復旧する対策ソフト「WebARGUS（ウェブアルゴス）」の販売を開始しており、商品のラインアップ・営業の強化を進めております。

ガルヒ就労支援サービスが展開する就労支援事業においては、新たに5施設においてFC（フランチャイズ）施設もオープンし、ガルヒブランドの事業拡大も行いました。

この結果、売上高は214,754千円（前年同四半期比165.2%の増）、セグメント利益は22,341千円（前年同四半期は226千円のセグメント損失）となりました。

③空間プロデュース事業

空間プロデュース事業につきましては、宿泊施設の運営及びナイトクラブの運営による営業活動を行ってまいりました。

宿泊施設の運営については、インバウンド需要の戻りなどが見られ週末のみならず平日の宿泊も増加しております。また、4月前半にゲーム「黒い砂漠」のコラボイベントを実施することで新たな客層の取り込みを図り、若年層の認知向上に努めております。

この結果、売上高314,274千円（前年同期比30.6%の増）セグメント損失は127,898千円（前年同四半期は8,911千円のセグメント損失）となりました。

④ゲーム事業

ゲーム事業につきましては、2023年4月3日にオンラインエンターテインメントサービスの企画・開発・運営を行うインターネット企業、クレイゲームジャパン株式会社の株式を取得（子会社化）し、第2四半期以降に連結業績に寄与してまいります。

運営するオンラインクレイゲームアプリについてユーザーの満足度向上を企図し、ゲーム内の機能アップデートも実施いたしました。また、新たな大手プラットフォームにおける海外展開が2023年7月18日以降に可能になったため海外版アプリをリリースしております。

メタバース事業については、META CAMELOTの積極的な運営推進の一環として、NFTアバタープロジェクト「sine by META CAMELOT」NFTアバター2ndの販売も行いました。

その結果、売上高は4,073千円、セグメント損失は5,671千円（前年同四半期は13,124千円のセグメント損失）となりました。

⑤運送事業

運送事業につきましては、一般貨物自動車運送事業として、チャーター便、貸切配送便、ハンドキャリー、倉庫保管、医療品輸送などの営業活動を行ってまいりました。継続して、駐車場の貸出し等の安定的な収益獲得に加えて、大口の受注が見込める取引先の開拓を行っております。

その結果売上高は304,204千円、セグメント1,915千円のセグメント損失となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は3,334,878千円となり、前連結会計年度末に比べ701,421千円減少しました。これは主に、前渡金が129,050千円及び事業融資により営業貸付金が17,497千円減少したこと等によるものであります。

固定資産は1,971,715千円となり、前連結会計年度末に比べ324,997千円増加しました。これは主に、子会社取得によりの前払金が307,879千円増加したこと等によるものであります。

この結果、総資産は5,306,594千円となり、前連結会計年度末に比べ376,424千円減少しました。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は3,460,541千円となり、前連結会計年度末に比べ430,920千円増加しました。短期借入金が155,545千円及び契約負債が271,441千円増加したことなどによるものであります。固定負債は1,278,640千円となり、前連結会計年度末に比べ61,063千円減少しました。これは主に、長期借入金が46,681千円減少したことなどによるものであります。

この結果、負債合計は4,739,181千円となり、前連結会計年度末に比べ、369,856千円増加しました。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は567,412千円となり、前連結会計年度末と比べ746,281千円減少しました。これは主に、新株予約権の行使により資本金及び資本剰余金がそれぞれ2,531千円増加した一方で、親会社株主に帰属する四半期純損失756,054千円を計上したことなどによるものであります。

この結果、自己資本比率は9.3%（前連結会計年度末は21.8%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想については、新株予約権の行使による発行済株式数の増加のため、2023年5月15日の「2023年3月期決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想から、1株当たり当期純損失を7.41円に修正しております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	888,115	568,732
受取手形及び売掛金	242,312	285,455
営業貸付金	1,867,825	1,850,327
営業投資有価証券	254,099	261,981
販売用不動産	410,444	410,444
商品	188,810	139,186
原材料及び貯蔵品	82,747	80,159
前渡金	170,033	40,983
その他	454,689	452,198
貸倒引当金	△367,776	△599,591
投資損失引当金	△155,000	△155,000
流動資産合計	4,036,300	3,334,878
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	617,200	617,379
土地	74,354	74,354
リース資産（純額）	99,360	86,083
その他（純額）	101,072	100,234
有形固定資産合計	891,987	878,052
無形固定資産		
商標権	276,699	261,327
のれん	52,716	360,596
その他	39,574	39,421
無形固定資産合計	368,989	661,344
投資その他の資産		
長期営業債権	400,963	431,939
投資有価証券	56,953	93,715
長期貸付金	167,242	168,908
繰延税金資産	201	22
敷金及び保証金	226,296	229,118
その他	73,883	79,390
貸倒引当金	△539,800	△570,776
投資その他の資産合計	385,740	432,318
固定資産合計	1,646,718	1,971,715
資産合計	5,683,018	5,306,594

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
負債の部		
流動負債		
契約負債	219,837	491,279
買掛金	171,696	224,248
短期借入金	1,783,254	1,938,800
1年内返済予定の長期借入金	340,652	331,314
未払法人税等	21,713	23,087
未払金	338,370	286,644
リース債務	59,525	57,155
ポイント引当金	18,133	18,133
未払消費税等	20,563	45,745
その他	55,871	44,131
流動負債合計	3,029,620	3,460,541
固定負債		
長期借入金	977,277	930,595
リース債務	54,860	41,588
資産除去債務	229,763	229,997
繰延税金負債	72,519	71,880
その他	5,283	4,578
固定負債合計	1,339,703	1,278,640
負債合計	4,369,324	4,739,181
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,058,533	2,061,065
資本剰余金	2,033,333	2,035,865
利益剰余金	△2,843,737	△3,599,788
自己株式	△24,876	△24,876
株主資本合計	1,223,254	472,265
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	17,172	22,628
その他の包括利益累計額合計	17,172	22,628
新株予約権	67,925	72,313
非支配株主持分	5,341	205
純資産合計	1,313,694	567,412
負債純資産合計	5,683,018	5,306,594

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
売上高	476,793	969,812
売上原価	258,356	545,017
売上総利益	218,436	424,794
販売費及び一般管理費	332,620	1,094,015
営業損失(△)	△114,183	△669,220
営業外収益		
売買目的有価証券運用益	—	15,672
受取利息及び配当金	9	419
持分法による投資利益	—	6,788
助成金等収入	5,380	—
貸倒引当金戻入額	12,800	150
その他	1,601	934
営業外収益合計	19,791	23,965
営業外費用		
支払利息	5,356	60,958
支払手数料	18,947	39,534
持分法による投資損失	2,814	—
その他	230	1,301
営業外費用合計	27,349	101,794
経常損失(△)	△121,742	△747,049
税金等調整前四半期純損失(△)	△121,742	△747,049
法人税、住民税及び事業税	2,405	17,486
法人税等調整額	—	△3,345
法人税等合計	2,405	14,141
四半期純損失(△)	△124,147	△761,190
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△7,087	△5,135
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△117,060	△756,054

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
四半期純損失(△)	△124,147	△761,190
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	9,002	5,455
その他の包括利益合計	9,002	5,455
四半期包括利益	△115,145	△755,735
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△108,058	△750,599
非支配株主に係る四半期包括利益	△7,087	△5,135

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

2022年までの新型コロナウイルスの感染拡大の影響は、当社グループの経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な悪影響を及ぼしており、前連結会計年度は、重要な営業損失、経常損失及び親会社株主に帰属する当期純損失を計上しました。また、当第1四半期連結累計期間も、重要な営業損失、経常損失及び親会社株主に帰属する四半期純損失を計上しており、資金繰りに懸念も生じております。

これらの状況により、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当社グループでは、このような状況を解消するために、前連結会計年度に第三者割当による新株式及び第10回新株予約権の発行による資金調達を行いました。当連結会計年度において株価低迷により想定された資金調達が進んでおらず、今後の事業資金の確保を他調達方法も含めて、別途模索・検討も進めております。エクイティファイナンスで調達した資金によりM&Aによるグループの主軸となる事業の育成を企図し、優良な法人や事業の取得および上場企業を含む事業会社へのエクイティあるいはデッド投資による収益化なども実施してまいります。また、アフターコロナにおいては社会の正常化が進むなかで、グループ内の既存事業も復調してきており、積極的な営業活動の強化を一層進めてまいります。

しかしながら、これらの施策は計画実施途上もしくは計画検討中であり、特に資金調達の面で未達の状況を勘案すると、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表に反映していません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、当第1四半期連結累計期間において新株予約権の行使による払込みを受けました。

この結果、当第1四半期連結累計期間において資本金及び資本剰余金がそれぞれ2,531千円増加し、当第1四半期連結会計期間末において資本金が2,061,065千円、資本剰余金が2,035,865千円となっております。

(セグメント情報等)

前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				合計
	金融サービス事業	サイバーセキュリティ事業	空間プロデュース事業	ゲーム事業	
売上高					
一時点で移転される財又はサービス	155,214	75,265	240,601	—	471,081
一定の期間にわたり移転される財又はサービス	—	5,711	—	—	5,711
顧客との契約から生じる収益	155,214	80,977	240,601	—	476,793
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	155,214	80,977	240,601	—	476,793
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	155,214	80,977	240,601	—	476,793
セグメント損失(△)	△91,921	△226	△8,911	△13,124	△114,183

(注)報告セグメントの利益又は損失は、営業損益ベースの数値であります。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					合計
	金融 サービス 事業	サイバー セキュリティ 事業	空間 プロデュース 事業	ゲーム事業	運送事業	
売上高						
一時点で移転される財又はサービス	85,688	207,285	314,274	4,073	304,204	915,525
一定の期間にわたり移転される財又はサービス	46,817	7,469	—	—	—	54,287
顧客との契約から生じる収益	132,506	214,754	314,274	4,073	304,204	969,812
その他の収益	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	132,506	214,754	314,274	4,073	304,204	969,812
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	132,506	214,754	314,274	4,073	304,204	969,812
セグメント利益又は損失(△)	△556,076	22,341	△127,898	△5,671	△1,915	△669,220

(注)報告セグメントの利益又は損失は、営業損益ベースの数値であります。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社は、前連結会計年度において運送事業を行う株式会社フィフティワンを連結範囲に含め、前第4四半期連結会計期間からの業績を連結損益計算書に取り込んでおります。当該事実を鑑み、前連結会計年度第4四半期から報告セグメントとして「運送事業」を新たに追加しております。なお、報告セグメントの変更が前第1四半期連結累計期間のセグメント情報に与える影響はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

当第1四半期連結会計期間において、クレーンゲームジャパン株式会社の株式を取得したため、連結の範囲に含めております。これにより「ゲーム事業」において、のれんが310,787千円発生しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

(重要な後発事象)

(訴訟の提起)

当社は、2023年7月24日開催の取締役会において、以下のとおり譲渡債権請求事件（以下、「本訴」といいます。）を東京地方裁判所に提起することを決議し、訴訟提起をしております。

1. 訴訟を提起する裁判所及び年月日

裁判所：東京地方裁判所
提訴年月日：令和5年7月24日

2. 訴訟を提起した者（原告）

名称：GFA 株式会社
住所：東京都港区南青山二丁目2番15号
代表者：代表取締役 片田 朋希

3. 訴訟を提起した相手（被告）

名称：株式会社サクシード
住所：東京都港区西新橋三丁目13番7号 VORT虎ノ門south11階
代表者：代表取締役 高田 朋宏

4. 訴訟提起に至った経緯及び訴訟の内容

当社は、2022年9月28日付「株式会社ヴィエリスからの一部事業譲受及び新たな事業の開始に関するお知らせ」において開示のとおり、美容脱毛サロン事業を一部譲受しておりますが取得に至る以前において、当社は株式会社ヴィエリスから割賦債権を2022年5月25日及び2022年5月30日に取得しております。

株式会社サクシードは、ヴィエリスの顧客に対して個別信用あっせん的一种である「サクシードクレジット」を提供しており、ヴィエリスは顧客がこのサクシードクレジットを利用した場合にサクシードから立替払いを受けられるところ、当社がヴィエリスからこの立替払いの未払い分等について債権譲渡を受けたためサクシードにその支払いの請求をしたところ、一部支払いを拒否されたことから、その支払いを求めるものとして本訴に踏み切ることとなりました。

訴訟の目的の価額：521,286,948 円

5. 今後の見通し

本訴に係る今後の経経過につきましては、必要に応じて適時開示を行ってまいります。

(新株予約権の行使による増資)

当第1四半期連結会計期間終了後、2023年8月14日までの間に、第10回新株予約権（ストックオプション）及び第11回新株予約権（ストックオプション）の一部の権利行使が行われております。当該新株予約権の行使の概要は以下のとおりであります。

(1)行使された新株予約権の個数	8,960個
(2)発行した株式の種類及び株式数 普通株式	896,000株
(3)資本金増加額	53,291千円
(4)資本準備金増加額	53,291千円

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

2022年までの新型コロナウイルスの感染拡大の影響は、当社グループの経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な悪影響を及ぼしており、前連結会計年度は、重要な営業損失、経常損失及び親会社株主に帰属する当期純損失を計上しました。また、当第1四半期連結累計期間も、重要な営業損失、経常損失及び親会社株主に帰属する四半期純損失を計上しており、資金繰りに懸念も生じております。

これらの状況により、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当社グループでは、このような状況を解消するために、前連結会計年度に第三者割当による新株式及び第10回新株予約権の発行による資金調達を行いました。当連結会計年度において株価低迷により想定された資金調達が進んでおらず、今後の事業資金の確保を他調達方法も含めて、別途模索・検討も進めております。エクイティファイナンスで調達した資金によりM&Aによるグループの主軸となる事業の育成を企図し、優良な法人や事業の取得および上場企業を含む事業会社へのエクイティあるいはデッド投資による収益化なども実施してまいります。また、アフターコロナにおいては社会の正常化が進むなかで、グループ内の既存事業も復調してきており、積極的な営業活動の強化を一層進めてまいります。

しかしながら、これらの施策は計画実施途上もしくは計画検討中であり、特に資金調達の面で未達の状況を勘案すると、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を連結財務諸表に反映していません。